

アリガタ家 新聞



本多
紗智



前田
美沙



篠田
大樹



片山
素晴

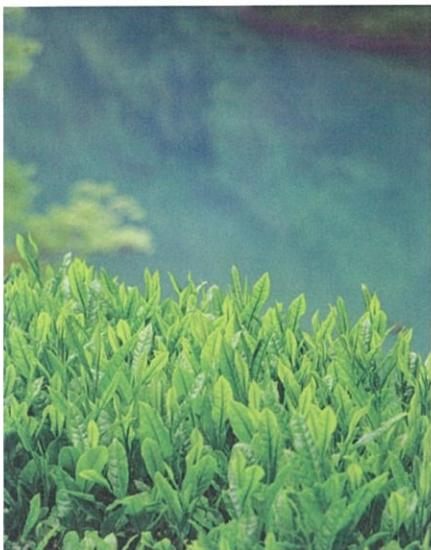
Vol. 91

2020年11月26日

編集者：篠田 大樹

まえだの天龍山墓らし~入門~

文：前田美沙



昼間は暖かいですが、朝晩冷え込む日が多くなってきました。今年の紅葉は綺麗ですね。
さて、11月頭までに借りている全ての茶畠の整枝作業を終えることができ、今年の外での仕事はひと段落といったところです。ほっとすると同時に、来年のお茶摘みもあつという間にくるんだろうな」と思つたりもします。
それから、最近新聞やテレビに中井侍銘茶の件で出させて頂く機会がありました。
正直あまり人前で話すのは得意ではないのでかなり緊張したのですが、長野県内の首長の方々が中井侍のお茶を「とても美味しい」と言つて飲んでくださつたり、興味をもつて話を聞いてくださつた事がとても嬉しかつたです。
今回の取材対象はたまたま私でしたが、中井侍の農家さんたちがこれまで築き上げてきたお茶の味や美しい茶畠の景色を私が代弁させてもらつただけで、本当に評価されるべきは中井侍の農家さんやそれらに携わる沢山の方々だと考えています。

長野県内でこんなに美味しく稀少なお茶があるという事が、だんだん広く知られてきたことをとても嬉しく思います。

素晴らしい暮らし



(記) 片山素晴

柚子の収穫時期になりました。坂部と倉の平の圃場を見て回りましたが、長雨で受粉がうまくいかなかつたのか、今年はあまり実がなってないようです。桃栗三歳年柿八年柚子の大馬鹿十六年と言われ間がかかる（実際は接ぎ木でもっと早く実をつけます）ので、今ある木は減らすことなく、つけた実は市場に出せるよう大切にしているのです。

天龍農林業公社ではパプリカ・ていざなすの収穫がほぼ終了となり、白ネギの収穫が始まりました。これから寒くなりますがで体が温まる鍋に白ネギと一緒にしますので白ネギに含まれるアリシンは、豚肉・豆腐などビタミンB1とりとても相性が良く、疲労回復・ストレス対策・老化／生活習慣病予防・冷え対策に有効です。パプリカに替わり白ネギが直売所・郵便局に並びますので、ぜひお買い求めください。

と

じ

し

る

十月からの活動 (文・篠田 大樹)

刻々天龍村 霜月便り 記・本多紗智

ついさなすは七月から出荷が始まり十一月十三日がついさなす組合最後の出荷日となりました。これまでに九百本以上収穫出来ましたが一株あたり平均九本程度の量で、同程度量の廃棄も出てしまつたので課題の残る結果となりました。来年は小さい変化にも気を配り、廃棄になるものを減らしてたくさん出荷出来るようになります。

十月末には伊那市のいなまち朝マルシェにて、ついさなすの二度目の販売をしましたが約五十本が完売しました。前回気に入つて、また買いましたという方もいらっしゃってPRが出来ていて実感を得ることが出来ました。

いなまち朝マルシェの様子 十月二十五日撮影

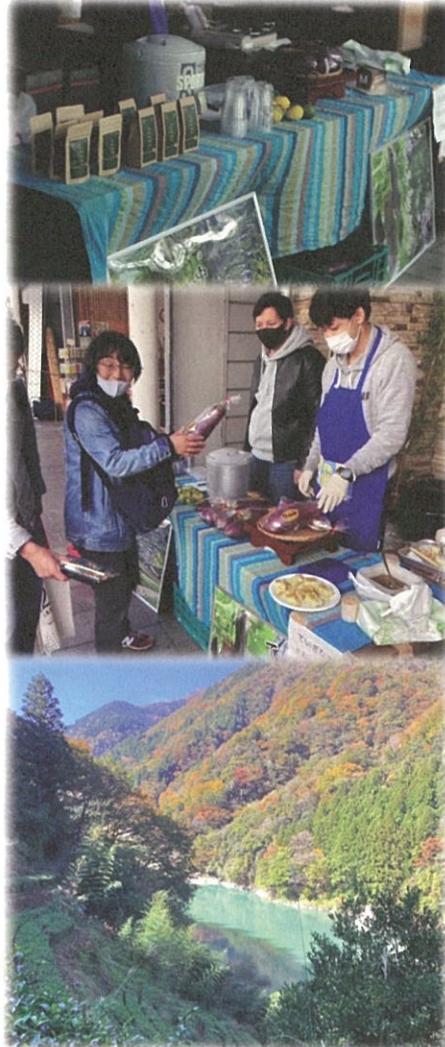
お茶畑と紅葉 十一月九日撮影

こんにちは。寒くなり山々が色付くスピードが速くなつてきました。協力隊任期もあと三か月となり、新しく何かを始めることはせず、やるべきことはやりながら、この場所での一日一日を大切に過ごしていきたいです。

呆れるほどのトラブル続きでしたが、ようやく刷り上がつた天龍百景夏号は、梅やついさなす、お盆行事など、初夏～夏らしいが伝わる写真を選びました。秋号は天龍村の紅葉と秋の実りの美しさが伝わるものになりそうです。

先日、三遠南信の神楽のユネスコ世界遺産登録についての説明会へ参加してきました。昨年の冬に神楽を見に行き、地元ツアードで驚くほど美味しい猪の塩焼きを「馳走」になつた宮崎県椎葉村の話が随所に出てきて、不思議な繋がりを感じました。また、祭りを観光化して失敗・休止となつてしまつた地域の実例を聞くこともできました。

私は協力隊初年度に初めて天龍村の霜月神楽を見て、元から祭りファンというわけではなかったのですが、向方のお潔め祭りに感銘を受けました。地区の方々のお話を聞いてると、祭りは「点」ではなく「線」であり、あくまで人々の暮らしの延長上にあるものということがわかつきました。



お茶畑の土砂崩れ復旧と歩道の整備、ツリーハウスの作製のクラウドファンディングは七十六名の方々から四十九万円を超えるご支援をいたしました。村内・村内出身者からも合わせて十一名の方々がご支援くださいました。ありがとうございました。土砂崩れ復旧の工事は役場を通じて八月に発注してもらつていて近々着工予定です。歩道の整備は一月からを予定していますので興味のある方はぜひご参加ください。

また、お茶畑の製枝、草刈り、肥料撒きの秋の管理作業が十月から始まり、十一月中には完了予定です。紅葉が綺麗で景色を楽しみながら作業しています。

個人的な話になりますが、ついこの間、上松町で木曽のねこ作り講座に参加してきました。衣食住の「衣」ひとつとっても、その地域ならではの特色や文化のバックボーンがあり、たとえ小さくても、そういった伝統を次に繋いでいくことの尊さを改めて感じました。コロナの影響で、ますます地方への移住が注目されているようですが、移住者に一番大切なのは地域の固有文化の尊重とリスペクトだと思ってるので、そういうものを蔑ろにした「リトルトーキョー」が各地に増殖してしまわないことを願うばかりです。